

測定公園リスト(2016年9月～10月測定)

頁	市町村	公園名	空間線量	測定日	頁	市町村	公園名	空間線量	測定日
2	所沢	所沢航空記念公園	0.045	9/1・10	13	毛呂山	毛呂山総合公園	0.050	10/13
3		緑町中央公園	0.051	9/15	14	鳩山	めじろ公園	0.048	10/16
4		滝の城址公園	0.048	9/15			鳩山農村公園	0.046	10/16
5		狭山	小手指公園	0.039			9/15	おしゃもじ山公園	0.047
	智光山公園		0.047	9/30			銀河の丘公園	0.049	10/16
6	狭山	狭山稲荷山公園	0.038	9/30	15	越生	ジャンボ公園	0.053	10/16
7	入間	入間彩の森公園	0.045	10/7			越生梅林	0.043	10/16
8		入間中央公園	0.043	9/17	神谷農村公園	0.041	10/13		
9		飯能	富士見公園	0.036	9/15	堂平天文台	0.050	10/2	
	名栗げんきプラザ		0.048	9/17	雀川砂防ダム公園	0.051	10/2		
10	飯能	飯能中央公園	0.049	9/25	16	ときがわ	馬場公園	0.041	10/2
阿須運動公園		0.058	9/25	明覚駅前公園			0.043	10/2	
11		あけぼの子ども森公園	0.053	9/25			せせらぎホール	0.051	10/2
12	日高	日高巾着田	0.058	10/13	17	東秩父	秩父高原牧場	0.046	10/2
		日高総合公園	0.046	10/7			東秩父ふれあい広場	0.058	10/2
		中の田公園	0.047	10/7					

- ◆ 空間線量は地上5cm高の測定平均値。単位はマイクロシーベルト毎時(μSv/h)。
- ◆ GPS連動のシンチレーション式の放射線計HSFを用いて、徒歩で移動しながら地上高5cmの空間線量を測定しました。
- ◆ 任意の場所、または、測定中0.1μSv/h以上にセットしたアラームが鳴った場所では、地上高5cm、50cmを定点測定しました。定点測定で自治体の除染基準を上回る空間線量を検出した場合は、直ちに通報、除染をお願いしました。

HSF市民測定所・深谷について

子どもたちを放射線から守りたいと願う市民グループによって、2013年秋に設立されました。高性能なGPS連動型放射線測定器(HSF)を用いて、埼玉県の子どもの集まる場所を中心に、空間線量を測定し、これを見える形で公表します。

▶ 公開ホームページ: <http://hsfnet.jimdo.com/>

- ◆ 発行: HSF市民測定所・深谷
- ◆ 連絡先: 電話 090-9829-8558 (小泉)
- ◆ メール: hsf.fukaya@gmail.com
- ◆ 配布: 3.11 市民ネット深谷
- ◆ ホームページ: <http://fukaya311.jimdo.com/>



非売品

公園放射線 MAP11

2016/9 - 10

所沢・入間

狭山・飯能

日高・毛呂山

越生・鳩山

ときがわ

東秩父



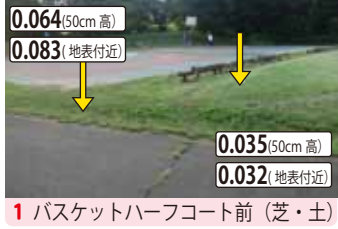
2017年1月1日現在、福島第1原発事故で放出された放射性物質セシウムの50.9%が環境中に残っています。空間線量に関しては事故直後の35%にまで低減しています。(数値は理論値)

HSF 放射線見える化プロジェクト埼玉

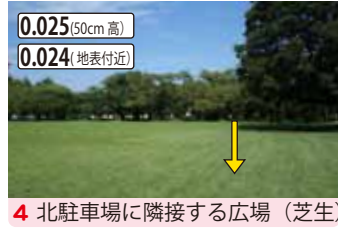
《500,000 m²の広大な公園、どこで遊んでもほぼ心配なし》

今までに測定した県内の公園で最大、総面積約500,000 m²とにかく広い。おまけにこの公園は隅々まで歩けます。まだまだ日差しが強い9月の初め、2日がかりの測定でした。地図を見てわかるようにほとんどのポイントが0.06 $\mu\text{Sv/h}$ 以下の●、非常に空間線量の低い公園です。ところどころにある●●は舗装面のすみのたまり土で、線量は0.1 $\mu\text{Sv/h}$ 前後です。しかし、写真7は落ち葉が積み上げられた場所です。所沢市の除染基準を超えています、ここは県営

●各ポイントの位置は簡易GPSの記録ですが、誤差が大きい場合は、補正を施しました。



1 バスケットコート前 (芝・土)



4 北駐車場に隣接する広場 (芝生)



2 沈床茶園の中央 (草・土)



3 ユニバーサル遊具南側 (砂・土・枯葉)

地表5cmを測定
放射線は光と同様、距離の二乗に比例して減衰します。埼玉のような低線量地区で、地表のセシウムを捕まえるためには、地表付近を測定する必要があります。

地図上の1・2・3の数字は写真の位置です。写真中の(数値)は、地上5cm高・50cm高の定点測定60秒間の平均空間線量です。単位は $\mu\text{Sv/h}$ 。0.114 $\mu\text{Sv/h}$ 以上は赤色表示としました。

線量区分
0.10
0.08
0.06
($\mu\text{Sv/h}$)

地図上の●●は、歩行測定10秒毎の平均値を色分けしたものです。距離にすると10m程度の範囲です。

公園で除染基準は0.23 $\mu\text{Sv/h}$ (50cm高)、なんとも微妙な数値です。と

4 北駐車場に隣接する広場 (芝生) もかくここには近づかないようにしてください。この1カ所を除けば、この広大な公園はどこで遊んでも心配な場所はありません。各

ポイントの詳細な数値は当会のホームページに掲載しました。本書と合わせてご覧ください。



5 健康広場小山頂上 (土)



6 航空記念館前の広場 (芝生)



7 文化センター裏との境 (枯葉・腐葉土)

測定日：2016年9月1日 13:50 ~ 18:10 晴れ 北東の風1m / 9月10日 10:30 ~ 17:30 晴れ 北東の風1m

$\mu\text{Sv/h}$ という単位について 一般に空間線量は $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時)、食品や土壌はBq/kg(ベクレル/キログラム)が用いられます。除染基準は空間線量0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 以上、食品は100Bq/kg以下が国の基準です。原発事故前は100Bq/kg以上のモノは放射性廃棄物として厳重に管理されましたが、事故後は8000Bq/kg以上に引き上げられました。

放射能とは 本来は放射線を放出する能力のことです。放射線には α 線、 β 線、 γ 線とありますが、この冊子の数値は γ 線の測定値です。 γ 線の中で問題となるのは原発事故由来のセシウムですが、この測定値には自然放射線の値も含まれています。測定データを分析して、明らかに自然放射線の影響と思われる場合は、説明をつけています。

《「しんとこのオアシス」、子ども遊び場はととも低線量》

所沢市内でも歴史のある公園の1つで、地域の憩いの場として「しんとこのオアシス」と呼ばれ親しまれているそうです。古い公園ですが、イベント向けの施設が整っています。測定したのは平日でお天気も曇り空、小さなお子さん連れが二組遊んでいただけでした。

所沢市内の他公園に比べ平均線量がやや高いようですが、地図中の●●の大半は舗装面の縁で、セシウムが石材からの自然放射線が判然としません。しかし、土の上はどこも0.06 $\mu\text{Sv/h}$ 未満の●で、特に子供の遊具周辺の空間線量は低く、環境省のいう事故前の線量0.04 $\mu\text{Sv/h}$ 以下の値です。小さな子どもも安心して遊べます。



測定日：2016年9月15日 12:00～13:00 曇り 南の風1m

人工放射能と自然放射能 原発事故で放出されたのは人工放射能、自然界にもともと存在しているものが自然放射能です。みかげ石等の石材・レンガ・碎石の上で計測される高い放射線はほぼ自然放射線と考えられますが、土や芝生の場合にはセシウムの濃縮の可能性が高いようです。HSFは、スペクトル表示で簡易的にセシウムの有無がわかります。

《セシウムのたまりそうな場所にセシウムがない》

南北に長細い公園で「滝の城」の本丸跡の一部と南側の水田跡を整備して作られた公園。野球場とテニスコート、若干の遊具や釣りが出来る池があります。平日でしたが、釣りをする人、散歩する人、なにやら集まって話をする人、年配の方が大勢いらっしゃいました。南北に2カ所、無料駐車場があります。

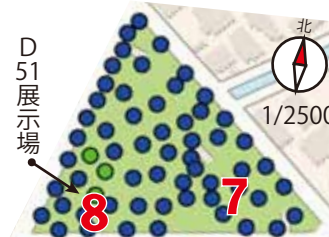
ここには、セシウムが濃縮しそうな条件の場所はたくさんあります。

しかし、どこを測っても問題のない空間線量です。やはり所沢だからこうなるのだと思われました。



所沢市 小手指公園

小さな三角形の公園。D51が展示されています。駐車場もなく地元の子どもの遊ぶ公園です。よく掃除がされており、どこを測定してもとても低い空間線量です。係りの方が落ち葉の掃除をしています。福島原発事故以降は、集めた落ち葉は袋に入れて焼却場へ運んでいるそうです。



測定日：2016年9月15日 13:00～13:30 曇り 南の風1m

自然放射線なら安全か？ 自然界には、もともと放射性物質が存在します。野菜や果物、豆類に多く含まれるカリウム40が有名ですが、みかげ石や素焼きレンガの一部からはウラン由来の放射線が測定されます。元京大助教の今西哲二さんは「自然放射線は危ないものであり、それに加えて人工放射線も浴びていると考えるのが妥当」と述べています。

《動物園もピクニック広場も安心して遊べる》

武蔵野の豊かな自然を活かした雑木林で形成されている公園。学校、幼稚園の遠足で行く公園なので測定して欲しいという地元のママからの依頼で、子ども動物園とわんぱくの森、ピクニック広場を測定しました。放射能に関しては、特に問題のある場所はありませんでした。どこでも遊んでも



1 ポニー舎の前 (白砂・土・草)

安心な公園です。



ありませんでした。どこでも遊んでも



2 ふれあい舎 (土・砂) モニュメント広場



3 水鳥の池入口の階段 (土・苔・草)



4 木陰広場中央 (土・枯草)



5 ピクニック広場 (土・枯葉)

又は、1 $\mu\text{Sv/h}$ (地表 1cm)

《狭山市のクールスポット？ 芝生の上でおもいきり遊べる！》

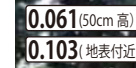
米軍から返還された基地跡地を整備した県営の公園です。芝生広場と散歩道がメイン、遊具も少しあります。芝生広場には巨大な金木犀が何本もあります。園内を隅々まで測定しました。



1 芝生エリア金木犀わき (芝生)



2 コバトン広場 (草地)



3 芝生広場道端 (たまり土、草)

平均線量 0.038 $\mu\text{Sv/h}$ ということも低い値です。こんなに線量の低い公園でも、アスファルト道路や駐車場の縁石の縁にたまった土には、若干ですが、セシウムが濃縮されています。全く無傷というわけではありません。

測定日: 2016年9月30日 14:20 ~ 17:20 曇り時々晴れ 南東の風 1m



智光山と稲荷山の空間線量 0.01 $\mu\text{Sv/h}$ の違いは、智光山に多用された石材からの自然放射線と考えられ、両公園の汚染度はほぼ同じだと思われる。

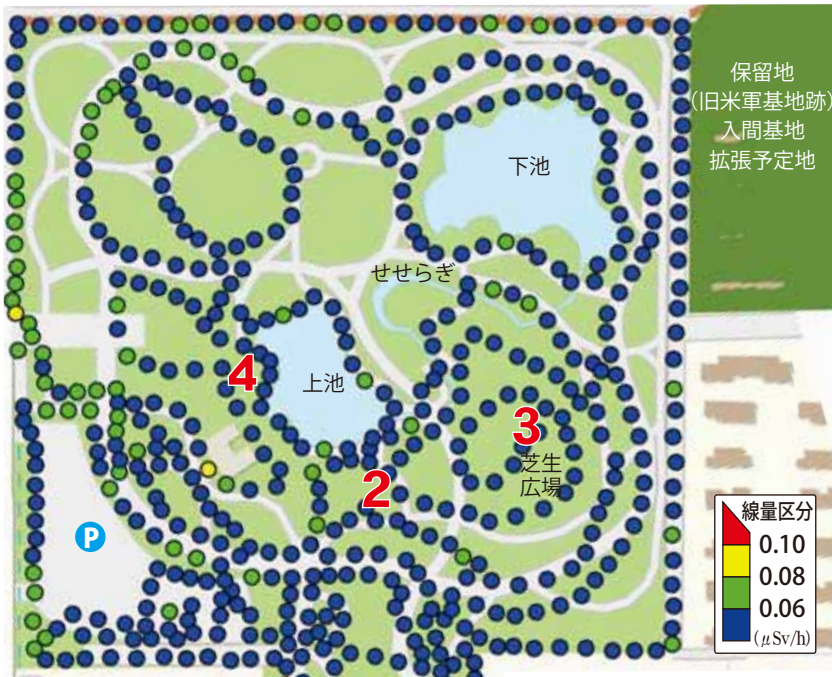
ホットスポットとクールスポット 環境省は、空間線量率 0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 以上を除染基準とし、原発事故前を 0.04 $\mu\text{Sv/h}$ としています。本冊子はこれに基づき、0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 以上の場所をホットスポット、0.04 $\mu\text{Sv/h}$ 以下の場所をクールスポットとします。空間線量率は測定する高さによって値が変わりますが、本冊子は 5cm 高での測定を基準とします。

ホットスポットの見つかる場所 広いアスファルトの駐車場の縁、雨水がたまりやすい場所がよく見つかります。たいいてい粘土質の土が溜まっています。また排水のU字溝の底の汚泥をさらって積み上げた場所、草地や芝地でも、中央よりは縁、全体的に土地が低くなっている所で見つかることがあります。大木の根元でもときどき見つかります。

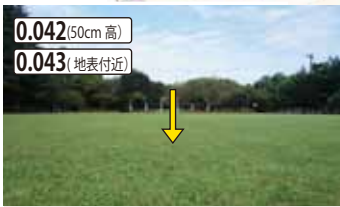
《豊かな森の公園、隣接する保留地の自然を残したい》

米軍から返還された基地跡地に作られた県営の都市公園です。大きなスポーツ施設はなく、芝生広場が中心、木陰も多く、ピクニックをするのに最適です。測定日は平日ながら駐車場は満杯、非常に混雑していました。散歩するお年寄り、小さな子連れの家族、何組かの園児の集団、たくさんの人であふれていました。

放射能に関して、通路だけでなく草地まで調査しましたが、問題ありません。空間線量の平均0.044 μ Sv/hは埼玉県内でも最も線量の低い公園の一つです。公園の東側は入間基地の拡張予定地で深い森になっています。森の際ギリギリの場所も低線量でした。



1/4000



1 多目的広場 (芝生)



2 コバトン広場 (芝)



3 芝生広場 (芝生)



4 上池周りの芝地 (芝)

測定日：2016年10月7日 10:00～12:50 晴れときどき曇り 北の風 4～5m

ホットスポットを発見したら 公園などで0.23 μ Sv/h以上の場所を見つけたら、すぐに自治体に通報します。通常は0.23 μ Sv/h以上なら除染してくれます。さいたま市や草加市は1 μ Sv/h以上ですが、多くの自治体は地表付近0.23 μ Sv/hの線量で除染します。自宅で見つけた場合、理不尽な話ですが、自己責任・自己負担で除染するしかありません。

《巨木の生い茂るスポーツ公園》

野球場・テニスコート・プールの運動公園です。児童遊具も若干ありますが、老朽化しています。ここもまた放射能が濃縮しそうな場所がたくさんあるのですが、どこもそれほどの線量ではありませんでした。平均0.043 μ Sv/hのとても空間線量の低い公園です。駐車場が他より若干高い線量ですが、セシウムか自然放射線か判然としませんでした。



1 プール隣の芝生広場 (芝生)

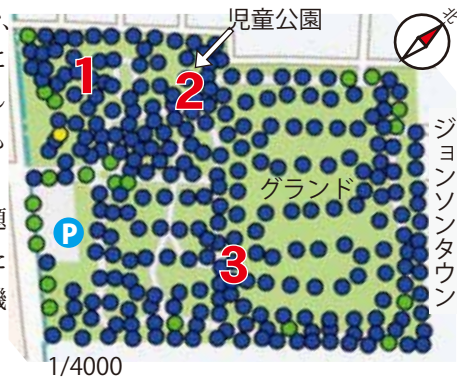


2 児童広場シーソー (土・枯松葉)

入間市 富士見公園

シーソーやブランコ、ジャングルジム、ローラー滑り台、木製大型遊具と子どもが遊べる公園です。緑も多く散策に最適です。ここは戦後に駐留アメリカ軍の居住エリアでした。隣接するジョンソンタウンは、再開発が行われ、今も米軍がいた当時の雰囲気を忠実に残しています。

放射能に関しては、他の入間の公園同様、まったく問題なし。小さな子どもでも、心配なく遊べる公園です。私たちにとっては短時間のことですが、超低空飛行のジェット機の轟音の空を見あげながらの測定でした。



1 木製のとりでの下 (土)



2 スベリ台の前 (土・砂)



3 公園中央のベンチ (土・枯葉)

測定日：中央公園 2016年9月17日 14:25～15:45 晴れ 南の風 1m / 富士見公園 9月15日 14:45～16:10 曇り 南東の風 1m

自宅を除染する 除染したい場所を、放射線計で測定しながら、納得できる線量になるまで土を削ります。深さは5～10cm程度？ 厚手のビニール袋(大)を二重にして、これに汚染土を入れます。ビニール袋の汚染土はそのまま、穴を掘って30cm以上の深さに埋めます。このとき出た土の一部は除染部分に覆土し、残りは汚染土の埋設に使います。

《セシウムは低いところに集まる》

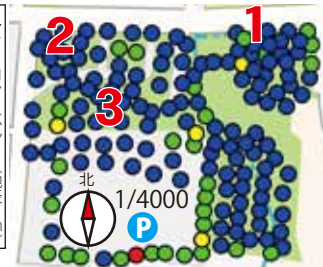
飯能市の最北端、秩父郡の横瀬町との境付近の県営げんきプラザです。学校の宿泊体験学習によく利用されます。測定当日も幼稚園くらいの小さな子どもの団体が何組か利用していました。

空間線量に関しては、全体的には低めですが、やはり山の下
の正門付近にセシウムの濃縮ポイントがありました。高
い所よりは低い所のセオリー通りです。



飯能市中央公園

移動測定平均 0.049 μ Sv/h



飯能市市民会館の北側に隣接した公園で、桜の名所としても知られています。園内には、アトム像周辺を中心にアスレチック遊具や滑り台、ジャングルジムなどの遊具が整備されています。空間線量に関しては、

特に問題はなく、子どもの遊ぶ場所はとても低い空間線量です。駐車場南に0.1 μ Sv/hのたまり土があっただけです。



測定日：げんきプラザ 2016年9月17日 10:00～13:00 晴れ 南東の風 1m / 中央公園 9月25日 14:30～15:20 晴れ 南東の風 1m

雨風で移動するセシウム セシウムは微細な土と結合した状態で風雨によって移動します。2017年1月現在、セシウムは3.11原発事故当時の51%に減っています。広い駐車場の隅の排水の悪い場所では、雨が降るたびに放射線量が高くなる傾向にあります。セシウムは、中央より隅、高い所より低い所、乾燥した所より湿った場所で濃縮されます。

《ムーミン谷も埼玉の平均的空間線量》

《阿須運動公園》飯能市における体育施設が集中して設置されている運動公園ですが、子どもの遊び場や芝生広場も充実しています。公園全部は測りきれず、子どもが遊ぶ場所を



所を中心に測定しました。全体的には空間線量も低いのですが、何カ所か0.1 μ Sv/h程度のセシウム濃縮ポイントがありました。《あけぼの子ども森公園》運動公園に隣接する丘陵にあります。園内は「ムーミン

屋敷」など、ムーミンの世界を人物大で再現しています。

入園無料の公の施設で、これだけのものが見られるとは驚きです。子どもよりも大人が楽しんでいるようです。起伏に富んだ園内ですが、空間線量

に関しては埼玉の平均レベルです。

入口の坂道の道路わきに0.1 μ Sv/h程度のセシウム濃縮ポイントがありました。

測定日：2016年9月25日 10:20～14:15 晴れ 南東の風 1m

年間1mSv 法律が定めた年間被ばく量の限度で、世界基準もこれです。日本政府はあれこれ数字を操作して、0.23 μ Sv/h以下としています。単純に1mSv÷365日÷24時間=0.114 μ Sv/hと計算し、当会はこれ以上の場所を「危険」と判断します。同じ被ばく量でも、子どもは大人の10倍も100倍も大きなダメージを受けます。

飯能市除染基準 0・2・3マイクロシーベルト(地表50cm)

《空間線量が全体にうっすらと高い 地形の関係か?》

日和田山からの眺めが巾着のように見え、昔はそのすべてが水田だったそうです。現在は曼珠沙華で有名です。混雑が予想されたので曼珠沙華が終わった後に測定しました。とはいえ、大型バスで小学校が二組遠足に来ていました。また、近所の保育園児が川岸を散歩、ちらほらとハイカーの姿もありました。所沢市、入間市、狭山市の公園



山に囲まれ
た地形のため
でしょうか。
問題になるよう
な線量ではあり
ませんが、日高市
の他の公園と比べて
●●の多さが目立ちました。



半減期 放射能は時間の経過で減衰していきます。放射性物質が崩壊して放射能が半分になる時間を物理学的半減期、その場所での放射性物質の流出と再流入の合計が半分になる時間を環境的半減期といい、これは同時に進行します。セシウム134の物理学的半減期は2年、セシウム137は30年です。環境的半減期は除染や清掃によっても短縮されます。

《駐車場以外はどこも安心して遊べる》

運動施設の
充実した運動
公園で、桜の
名所として
も有名だそ
うです。子
どもの遊び
場も充実し
ており、測定
日も大勢の子
どもたちが遊んで
いました。11haの広大
な園内は散策にも最適です。

駐車場の空間線量がやや高めで
すが、園内は低線量。子どもの遊び場、
森の中、せせらぎ水路、グラウンドいずれも
問題のない空間線量でした。



中の田公園

市街地の公園ですが、巾着田のすぐ近く。
三角形の園内には広場や遊具があります。
トイレは立派でしたが、その他は老朽化を
感じました。かなり起伏に富んだ造りにな
っていますが、セシウムが濃縮し
ている場所はありませんでした。

測定日: 2016年10月7日 総合公園 13:50~15:30 / 中の田公園 16:20~16:50 晴れ 南の風 1m

【セシウムの物理的半減期に則った空間線量率の低減】セシウムの物理的半減期と空間線量率の低減のスピードは異なりま
す。物理減衰以外の要因により空間線
量率の低減は早く進むといえます。

経過年数(2011年3月から)	0年	0.5年	1年	2年	3年	4年	5年	10年	20年	30年
空間線量率の低減(理論上)	100%	89%	79%	63%	52%	44%	38%	25%	18%	14%

日高市除染基準0.23マイクロシーベルト(地表50cm)

《山のすそ、斜面や崖の下には注意しよう》

スポーツ施設の充実した運動公園です。プールは閉鎖中です。散策が出来る遊歩道も整備され、遊具を設置した子どもエリアも少しあります。特に線量の高い場所はありませんでしたが、斜面の下にある子どもエリアが、他と比べると若干高めの空間線量でした。



1 池と体育館の間の広場 (芝) 2 冒険広場 (土・草) 3 滑り台の下 (土、小砂利)

《都会的な雰囲気がただよう静かな農村公園》

農村公園とは名ばかり、しっかり計画された都会的な雰囲気の公園です。幅広い年代が楽しめるようにつくられています。公園東側に広がる森の散策道の雰囲気は素晴らしく、別世界に迷い込んだような気がしました。空間線量についても、問題なし。どこでも心配なく遊べます。



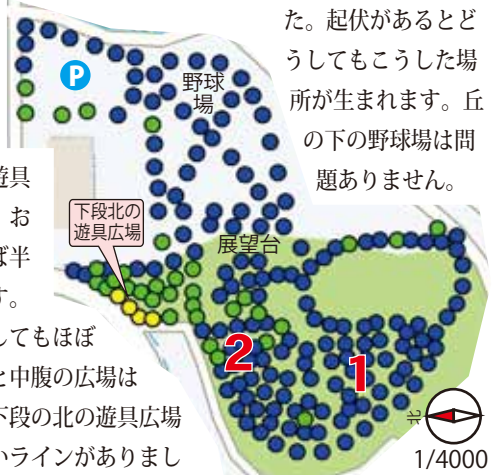
1 滑り台の下 (土、小砂利) 2 じゃぶじゃぶ池の広場 (芝生) 3 森の遊歩道 (土・枯葉)

毛呂山町 めじろ公園



1 北側の広場 (芝・草) 3 滑り台の降り口 (芝)

小山の地形を生かしたおもしろい公園です。駐車場もない地区公園ですが、遊具もたくさんあり、お弁当を持参すれば半日は遊べそうです。空間線量についてもほぼ問題なし。山頂と中腹の広場は低線量です。最下段の北の遊具広場にやや線量の高いラインがあります。



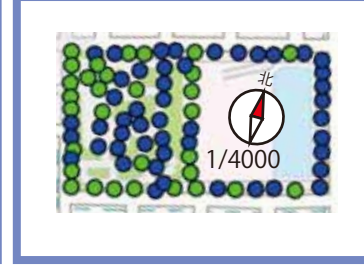
測定日：総合公園 2016年10月13日 14:00～15:20 曇り 東の風 1m / めじろ公園 10月16日 11:00～12:10 晴れ 南東の風 1m

銀河の丘公園



1 白鳥の停車場 (土・砂利)

ジャンボ公園



おしゃもじ山公園



2 頂上 展望台付近 (土・草)

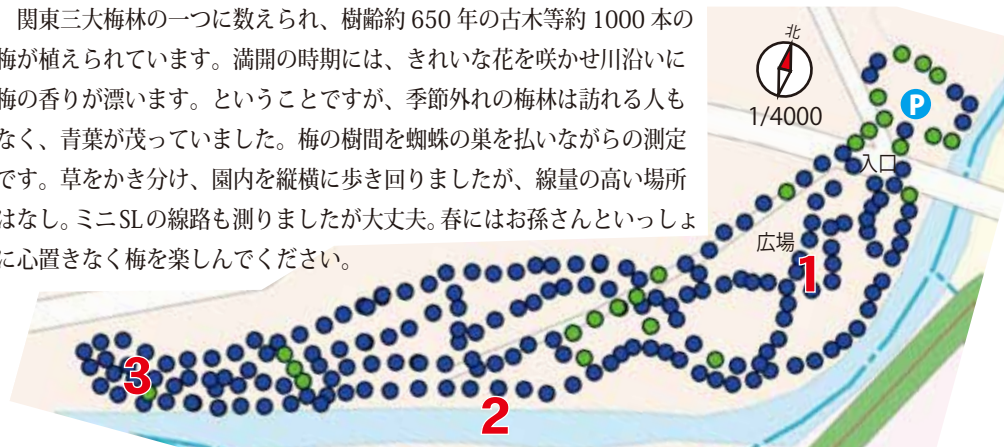
測定日：2016年10月16日 12:15～15:50 晴れ 南東の風 1m (鳩山農村公園～ジャンボ公園)

放射線測定器について エアカウンターは半導体式、テラや RADEX はガイガー管式、当会の HSF やホリバはシンチレーションです。測定の条件にもよりますが、テラや RADEX は、HSF やホリバの倍くらいの数値を示すことがあります。HSF の値はホリバよりも 1～2 割低い値。安価なものでも、DC-100 (2万円程度) はホリバと同様の数値が出ます。

大宮公園でホットスポット 2016年5月大宮第2公園駐車場で 1 μ Sv/h 超のホットスポットを発見しました。駐車場の縁にたまる土を5年間にわたって積み上げたそうです。通報後、県は速やかに除染を完了、現在は除染基準値以下になっています。埼玉では考えられない高い汚染ですが、原発事故は今も続いていることを改めて思い知らされた事件でした。

《梅林内の空間線量はとても低い》

関東三大梅林の一つに数えられ、樹齢約650年の古木等約1000本の梅が植えられています。満開の時期には、きれいな花を咲かせ川沿いに梅の香りが漂います。ということですが、季節外れの梅林は訪れる人もなく、青葉が茂っていました。梅の樹間を蜘蛛の巣を払いながらの測定です。草をかき分け、園内を縦横に歩き回りましたが、線量の高い場所はなし。ミニSLの線路も測りましたが大丈夫。春にはお孫さんといっしょに心置きなく梅を楽しんでください。



越生町 神谷農村公園



梅林のすぐそばにある農村公園、グラウンドと遊具広場からなります。梅林が観光施設なら、こちらは地元の人が利用する施設です。測定時には1~2人の年配の方がいましたが、聞けば日曜日には子どもたちが遊んでいるとのこと。空間線量に関しては問題なし、平均線量0.041は環境省が福島原発事故前の線量とした数字です。



測定日：梅林 2016年10月16日 9:30~10:40 晴れ 南東の風1m / 神谷農村公園 10月13日 15:40~16:40 曇り 東の風1m

土壌検査 土を食品のように検査し、放射線量はBq/kgで示されます。埼玉の平均は100~130Bq/kgと思われます。空間線量にはなかなか反映せず、5cm高0.05 μ Sv/hで300Bq/kgという事例もありました。除染基準0.23 μ Sv/hを超える場所で数千Bq/kg、大宮第2公園のホットスポット(1 μ Sv/h)の除染前は20,000Bq/kg以上と考えられます。

《堂平山の山頂にもセシウム》

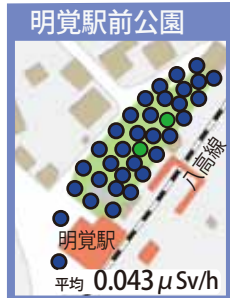


ときがわ町が運営する「星と緑の創造センター」堂平天文台とキャンプ施設を測定しました。標高876mの堂平山頂ということで、空間線量もより低いことを予想していましたが、平地部より若干高いという結果になりました。理由はわかりません。線量の高いところは、セオリー通り斜面の下のくぼ地でした。



雀川砂防ダム公園

雀川の上流付近にある雀川砂防ダムにある自然環境の保全をテーマにして整備された公園。野外ステージ、溪流広場、展望広場などがあります。バーベキュー、キャンプOKで、アウトドア派にはう



れしい公園。測定日も2組の家族がテントを張っていました。空間線量は平均的な値で、問題のある場所はありませんでした。

測定日：2016年10月2日 9:30~14:10 晴れ 南の風1~2m (5公園を同日に測定)

薪ストーブの灰 薪ストーブの燃焼灰はセシウムを200倍以上に濃縮します。400Bq/kg以上の灰を畑に撒くことは禁じられています。薪(ペレット)ストーブユーザーは必ず、灰の検査をするべきです。2014年7月、当会が東松山市岩鼻公園で発見した1 μ Sv/h超のホットスポットも、燃焼灰の不法投棄が原因であったと思われます。

越生町除染基準0.19マイクロシーベルト(地表50cm)

ときがわ町除染基準 国・県の基準に準ずる

《ヤギふれあい広場 子どもを子ヤギと遊ばせたい》

埼玉県が運営する東秩父村の最大の観光施設です。測定当日もたくさんの人が訪れていました。特にヤギふれあい広場(写真

1)は、空間線量も低く、小さな子供も安心して遊べる場所です。羊放牧所へ通ずる県道361号側の通路(写真2)



1 ヤギふれあい広場(牧草) 2 ヒツジ放牧場通路角地(溜まり土)

ふれあい広場 平均 0.058 $\mu\text{Sv/h}$

村民が利用する公園。野球場がメインですが、遊具もあります。アスファルト舗装面きわの縁石に溜まった土などで、やや高め



1 遊具広場(芝生・草) 測定日: 2016年10月2日 14:40~16:50 晴れ後曇り 北東の風1~2m (2公園を同日に測定)

除染基準 国の除染基準は0.23 $\mu\text{Sv/h}$ です。埼玉県の除染基準はHPでは1 $\mu\text{Sv/h}$ と読めますが、県の担当者によると0.23 $\mu\text{Sv/h}$ のようです。市町村の除染基準は1・0.23・0.19($\mu\text{Sv/h}$)、測定高さ100・50・5(cm)・地表とさまざまで、統一基準はありません。私たちがホットスポットを発見した場合は、各市町村の除染基準で除染を要請しています。

ヤギふれあい広場

の端、西の大駐車場の縁などで、やや高い空間線量を示す場所もありました。

牧草地や土の道は低線量ですが、舗装道路の縁や斜面の下のたまり土にセシウムは集まるようです。これは山地も平地も関係なく、同様の傾向です。



1 遊具広場(芝生・草)

放射線マップ 線量別色分け区分について

埼玉県深谷市の測定からスタートした「放射線見える化プロジェクト埼玉」で作成する放射線マップは右の色分けを使用しています。

空間放射線量区分 ($\mu\text{Sv/h}$)	
0.10以上	環境省の除染基準 0.230 国の年1mSvの計算値 0.190 年1mSvの単純計算値 0.114
0.08~0.09	チェルノブイリでは、0.114以上は移住権利ゾーン、0.05~0.11は管理強化ゾーン
0.06~0.07	原発事故前 0.03~0.04
0.05以下	

今回の測定では、空間線量が低く、この色分け区分が機能しない公園もありましたが、埼玉県内の空間線量をシームレスに表現することを優先し、変更はしませんでした。

空間線量計ホットスポットファインダー(HSF)について

GPS連動のシンチレーション式放射線計です。移動しながら放射線を測定し、その測定値をGPS情報とともに保存します。HSFは、正確な測定値を出すことが、環境省福島環境再生事務所の実証試験報告書で証明されました。また、グラフ表示で、計測値がセシウムか自然放射線かを簡易的に判断できます。



数値をどう判断するか?

- 放射能は、どんな微量であっても「避けられるものは、できるだけ避ける」が原則です。
- 0.230 $\mu\text{Sv/h}$ 国(環境省)の除染基準。1 $\mu\text{Sv/h}$ を除染基準とする自治体もあります。
 - 0.190 $\mu\text{Sv/h}$ 国が算定した年間1mSv被ばく線量。これが除染基準の自治体もあります。
 - 0.114 $\mu\text{Sv/h}$ 国際放射線防護委員会の一般人年間被ばく限度1mSvの1時間あたりの値。
 - 0.054 $\mu\text{Sv/h}$ 県内6カ所のモニタリングポストの2016年11~12月の月平均です。
 - 0.035 $\mu\text{Sv/h}$ 福島第一原発事故前の埼玉は0.035 $\mu\text{Sv/h}$ だったというデータがあります。

支援のお願い HSF市民測定所・深谷は、放射能から子どもを守ることを目的に、市民有志によって設立されました。既成の団体とは一切関係なく、ボランティアと市民からの寄付で運営しております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。
● ゆうちょ銀行: 普通 10390-82989741 口座名: H S F 市民測定所・深谷(エイチエスエフシモンソクテイジ ョフカヤ)

